

令和6年(2024年)8月1日

「しなやかに」そだつ・そだてる、「豊かに」つなぐ・つながる 教師の育成プログラムの開発 ～地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（文科省）に採択～

【本件のポイント】

- 地域教育文化学部児童教育コース学校推薦型選抜Ⅱ（山形県小学校教員希望枠）合格者を対象とした特別教育プログラムの実施
- 山形県教育委員会との連携、教員経験のあるファシリテーターの参画
- 特別教育プログラムで身につく力
 - ・ 「ちゃんとしなきゃ」を手放して教師として「成し遂げたい志」を育てる力
 - ・ 教師として「成し遂げたい志」の実現に向かう力
 - ・ 地域ぐるみで子どもも大人もともに学びあうコミュニティづくりに関わる力



【概要】

地域教育文化学部児童教育コースでは、令和7年度入試より学校推薦型Ⅱ（山形県小学校教員希望枠）を導入する予定です。本入試の合格者を対象とした特別教育プログラムも同時に実施され、この取り組みについて「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（文科省）」に採択されました。本特別教育プログラムは「『しなやかに』そだつ・そだてる、『豊かに』つなぐ・つながる教師の育成」を目標としており、山形県教育委員会との連携のもと、県内の教育課題に即した教員養成を行うものです。山形県教育委員会指導主事や教員経験のあるファシリテーターなどによる山形県の教育課題に関わる実践的な少人数学習とメンター教員によるコーチングを行う等の特色ある教育プログラムを目指します。

【背景】

教師不足が全国的な課題となっていますが、特に山形県は教員採用試験における志願倍率も含め、深刻な状況になっています。この状況を改善し、山形県の教育課題に対応できる教師を育成するために地域教育文化学部児童教育コースでは、令和7年度より学校推薦型選抜Ⅱにおいて山形県小学校教員希望枠入試を実施し、県内の小学校教員を目指す学生を受け入れ、特別教育プログラムによって県内の教育課題に対応できる教師の育成を行うことになりました。本事業で取り組む主な課題としては、子どもたちと教師・親・地域の大人との間のコミュニケーションの希薄化や価値観の乖離の問題が挙げられます。その解決のためには、学校を中心とした地域学校協働活動の推進を通して立場や年齢の違いによらずすべての人々が互いに学び合い、生涯にわたって成長し続ける成長型コミュニティを地域に創生する必要があります。

【特別教育プログラムについて】

令和7年度より実施する特別教育プログラムでは「『しなやかに』そだつ・そだてる、『豊かに』つなぐ・つながる教師の育成」を目標とし、山形県教育委員会との連携のもと、(1)「ちゃんとしなきゃ」を手放して教師として「成し遂げたい志」を育てる力、(2)教師として「成し遂げたい志」の実現に向かう力、(3)地域ぐるみで子どもも大人もともに学びあうコミュニティづくりに関わる力を身につけます。大学・教育委員会・NPO等が連携して地域社会の中で質の高い教員養成を行う活動を通して学校を核に持続可能な地域学校協働活動を推進することで、学校・地域・企業・NPO等が連携する成長型コミュニティ創生につなげることを目的とします。

お問い合わせ

地域教育文化学部事務室

TEL 023-628-4304

メール yu-kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

取組名：成長型コミュニティ創生につながる地域学校協働活動推進のための質の高い教員養成事業

教員養成・研修の やまがたモデル構築

山形県教育委員会

次世代教員養成研修
プロジェクトチーム

高校生向け

小学校教員体験セミナー

山形県小学校教員志望枠入試



コーディネーター

地域学校協働活動活性化のスターター としての教員養成システム構築

山形大学地域教育文化学部



特別プログラム専門委員会

社会教育施設

総合型地域
スポーツクラブ

文化団体

特別プログラム

1年次「地域教育実践演習Ⅰ～Ⅳ」

2年次

3年次

4年次

学級ファシリテーション実践講座

地域課題の理解
外国語・算数授業力向上講座学校視察
複式学級運営講座ICT活用能力講座
インクルーシブ教育体験コーチング面談
大学での学習目標設定

基礎実習の目標設定

本実習の目標設定

教員採用後の目標設定

地域の教育課題対応力の習得

生涯発達理論に基づく目標設定

授業力向上の基礎知識を得る

地域とのつながり方を知る

地域の教育課題解決の提案

学生グループの
リーダー
として活動

地域の教育課題解決への取り組み

生涯発達理論に基づく目標再設定

児童教育コース科目
(特別プログラム生必修)

「教職論」

「外国語の基礎」

「教育学」

「算数の基礎」

「生涯学習論」

「地域社会とファシリテーション」

「フィールドプロジェクト」

連携・協働
事業提案

「地域学校協働インターンシップ」

「教職実践演習」

多様な学び方支援フェスタ

放課後等
デイサービス

適応教室

フリースクール

学童保育

放課後
子ども教室子育て・不登校
支援NPO等

学校

教員採用における大学推薦の枠組みの検討

教師としての成長・発達の追跡調査

子どもの個性を尊重した協働学習のできる
教員として学級ファシリテーションを推進地域連携のできる教員として
地域学校協働活動を推進

学校運営協議会

企業

1. 第7次山形県教育振興計画（骨子 案）「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」に貢献する教員養成のための2つの目標：①「しなやか」にそだつ・そだてる教師 ②「豊か」につなぐ・つながる教師 の育成

2. 山形県が抱える課題の所在：チャッター※のマイナス面を感じ取る人びとの増加

※チャッター：心の中で無意識に循環するネガティブな思考（例：「ちゃんとしなければ」「早くしなければ」「失敗や間違いはいけない」「我慢しなければいけない」「わがままを言うてはいけない」「みんなに合わせなければいけない」など）

教師になると...子どもの失敗や間違いを責める、言う通りにしない子どもを許せない、自分の指導方法の説明ができない→理不尽な指導によって**子どものワクワク感を抑え込んでしまう**



チャッターに縛られていると...「失敗や間違いはいけない」、「わがままを言うてはいけない」、「みんなに合わせなければいけない」→失敗は恥ずかしいから隠す、本当にやりたいことを我慢する、周囲に表面的に合わせて行動する

大人になると...他者の失敗や間違いを責める、失敗を恐れて挑戦できない、自分の正しさを主張して多様性を認められない→協働的なつながりを失い、互いに監視し合うことで**社会のワクワク感を抑え込んでしまう**



不登校・引きこもり

教員が非難される側になったことによる教員不足

監視される側から監視する側へ・非難される側から非難する側への移動



ネット社会や大都市への移動



3. 学校を含む地域社会全体のウェルビーイングを目指して（特別教育プログラムの主な構成）

①「しなやか」にそだつ・そだてる教師 の育成

しなやかにそだつ：教師を目指す学生が自身のチャッターを克服しながら、自分らしく生涯成長できる教師になる志を育てるための科目群

- ◎1年次「教職論」：チャッターの自覚、発達課題を踏まえた目標設定
- ◎1～4年次「教職キャリア形成I/II」：定期的なコーチング面談によるチャッターと発達課題の克服状況の確認および目標の再設定

しなやかにそだてる：学級ファシリテーション演習により身につけた安心安全な話し合いの場づくりの力の土台の上に、山形の教育課題に取り組むために必要とされる知識・技能を習得するための科目群

- ◎1～2年次「地域教育実践演習I/II」：学級ファシリテーション基礎講座、地域課題の理解と教材化、学校視察とリフレクション、ICT活用能力講座
- ◎3～4年次「地域教育実践演習III/IV」：学級ファシリテーション実践講座、教科授業力向上実践講座、複式学級運営講座、インクルーシブ教育体験、教育データ分析講座



②「豊か」につなぐ・つながる教師 の育成

豊かにつなぐ：学校および地域学校協働活動の課題解決プロジェクトへの参画および地域の学童保育、適応教室、フリースクール、放課後子ども教室、子育て・不登校支援NPOなどが参加する「多様な学び方支援フェスタ」の企画運営を通して地域の多様な人びと、地域の多様な組織・機関・NPOや企業などとのつながり方を知るための科目群

- ◎3年次「フィールドプロジェクト」
- ◎4年次「地域学校協働インターンシップ」

社会教育士取得を推奨

豊かにつなぐ：学校および地域学校協働活動でのインターンシップを通して、子どもたちと地域の多様な人びと、地域の多様な組織・機関・NPOや企業の人びとをつなぐ経験をするための科目群

- ◎3年次「フィールドプロジェクト」
- ◎4年次「地域学校協働インターンシップ」



ワクワク感を取り戻す

ワクワク感を築く

ワクワク感を広げる

志に向かうことで「周囲の共感→応援・協力を得る→探究・挑戦に向かう」の循環を生み出す

失敗や間違いと向き合って探究・挑戦を続けながら子どもたちや地域の人びとと向き合う

地域社会の人びとと共に成長型コミュニティを築いていく